

●協働学習 ■児童生徒発表型

山梨県甲斐市立双葉東小学校
久保田 熊

実践タイトル 効果的なプレゼンテーションシーンの創出

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板

- ・プレゼンテーション資料を電子黒板に提示することで、児童の学び合いを活性化できるようにする。

静止画

- ・児童が手書きした資料（高速スキャナで静止画としてデジタル化した資料）をもとにプレゼンテーションさせることで、提案内容を明確にさせる。

参考にしてほしいポイント

- ・小学4年生の児童の実態から、思いを自由に表現させるには、手書き資料を生かしたい。そこで本単元では、児童は、手書きの提案資料を作成して、それを高速スキャナでデジタル化して、電子黒板に提示できるようにする。
- ・電子黒板で提示できるように、提案資料の大きさは、模造紙サイズではなくA4版サイズとする。作成時間の短縮を図ることができ、その分、どう伝えるか、どう学び合うかに時間を費やすことができる。
- ・提案は電子黒板で、学び（話し）合いの履歴は黒板に記録し、不易と流行を大切にした構成とする。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)		主な学習活動	ICT機器・教材・コンテンツ等
導入	0	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに作成した手書きプレゼンテーション資料を、デジタル化して、電子黒板で提示する準備をする。 ・学習問題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 昇仙峡を活性化する作戦をプレゼンテーションして、より昇仙峡がパワーアップするにはどうすればよいか、仲間と話し合おう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・手書き資料（作戦）をデジタル化するための高速スキャナ ・静止画としてデジタル化した資料（作戦）（写真1）
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごと、自分たちの作戦（活性化策）を、電子黒板を活用しながらプレゼンテーションする（発表時間2分以内 2分×6班 班全員または代表者による発表）。 ・よりよい作戦（活性化策）にするための学び（話し）合いをする。 	
展開	5		<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板の拡大・ペン機能を活用して発表する（写真2）。 ・電子黒板と黒板の併用
	35		
まとめ	35	<ul style="list-style-type: none"> ・昇仙峡観光協会の方（外部講師）から評価やアドバイスをもらう。 ・アドバイスを参考にして、修正して提案する意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板と電子黒板を融合させた構成（写真3）
	45		

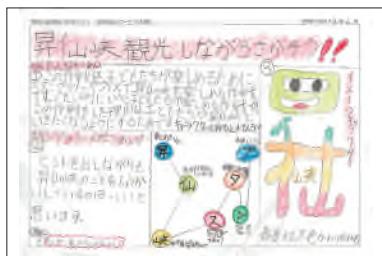


写真1：静止画としてデジタル化したプレゼンテーション資料(作戦)の一例

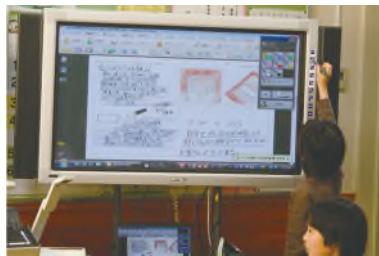


写真2：電子黒板の拡大・ペン機能を活用して発表



写真3：外部講師の招聘と黒板及び電子黒板の併用を目指した授業風景

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・プレゼンテーション資料を手書きでつくることができたので、作戦を思い通りに表すことができた。
- ・他の班の発表を集中して聞くことができた。また、拡大・ペン機能を使い、わかりやすい発表をすることができた。

活用効果

評価の観点	・社会的事象での思考・判断・表現 ・社会的な関心・意欲・態度	具体的変容	・電子黒板を活用したことで、児童は、効果的なプレゼンテーション資料のつくり方や、発表の仕方について考え、表現し、よりよい作戦（活性化策）を考えようとする意欲の高まりが見られた。
-------	-----------------------------------	-------	--

実践の手応え

- ・活性化策を記したプレゼンテーション資料は、A4版サイズの用紙にまとめさせた。それを電子黒板に反映させたことで、提示資料作成の時間を短縮でき、思考力・判断力・表現力を高める時間に費やすことができた。
- ・話し合い内容は、黒板にまとめた。話し合って気付いたことは学習シートに記した。全てを電子黒板に頼るのではなく、アナログ的な活動（不易）とデジタル的な活動（流行）を有効に使い分けることができた。